

# 2026 年 7 月 5 日(日) 七月大行事

## 《納谷理事長のご挨拶》

## 《由佳先生ご挨拶》

【由佳先生】

皆さま、おはようございます。七月大行事にご参加くださいますと、誠にありがとうございます。

私は今朝、行事が始まる前に、自然霊園のところで散歩をし、お祈りをさせていただいていました。

お祈りをしている中で、神聖復活の夜明けがもう本当にすぐなんだという感覚が自分の中からものすごく響いてきていて、今日のこの七月大行事も、皆さまとともに夜明けの大きな一歩となる働きをしてゆくのだ、という大きな確信を感じ取らせていただきました。

でも、現実の今の世界、社会には国同士の対立がある。国があるからゆえの様々な情勢、現状が目前にある。それにより、多くの人々が迷い、不安になり、心配になってゆく動きがむしろ加速しているように思えてきます。

皮肉のように思えてしまうのですが、「闇は深ければ深いほど、光はより遠くまで届き、見えてゆくものだ」という言葉があります。

神聖復活の夜明けに向かって、本当に残念な、今現状に起きている闇の中の状況がありますけれども、だからこそ今、私たちが一つとなって、大きな眩い光となってゆく。それはまるで太陽のような光です。

太陽が地球を照らすように、この闇に見える世界の中に、夜明けとなる光を、今、白光の行一つ一つを皆さまとともに行なうことで、その大きな光が結集されて、人類の神聖の目覚めが促され、夜明けにまた一歩近づいてゆく、本日はそのような大きな働きがあるんだということを感じています。

昌美先生のご原稿の中で、皆さまの今までの祈りや印、過去のすべての人々の祈りや印の光は、消えることなくずっと光り続けているんだと書かれた文章を読ませていただいたときも、私は本当に深い感謝の思いがありました。

本日の七月大行事では、今まで白光真宏会に降ろされた真理や行の一つ一つを丁寧に行なってまいります。

私が思うに、今日私たちが自分たちのいのちの奥深くに入ってくと、深く深く入った自分の神聖により今日は大きな器として働くことができる、そのような感覚を持っております。

その器に、その時々而降ろされたこれまでのすべての真理を一生懸命行じられていた過去のもう亡くなられた方々のお祈りの光を、一つまた一つと、自分の器の中に入れてゆくような気持ちで、本日の行を皆さまとともに行なってゆきます。

それは、過去も今も未来も、その境すらもなく、本当に無極の座というのはそういうことだと思ふんですけれども、私たちが器となって、過去の先輩方がそこに灯された、その灯火の光を一つ、また一つと、全部自分の神聖の中に入れ込んでゆく。

それによって、もっともっと大きい光を全国各地、そして世界中に、一人一人が照らしてゆく。それが結集したときに、大きな目覚めとなり、神聖復活の夜明けとなってゆく。そういう行事を、これから皆さま方ともに行なってゆくのだと思っています。

今日も皆さまとともにしっかりと、一つ一つの行を心を込めて祈る。その都度、過去にその行を祈られて、そこに光を残してくださった先達方の光も全部自分の中に取り込んで放つ。また、今世界中で心が闇になってしまっている人々、心の中に苦しみが広がり救いがないと思っている人々の心の中に、大いなる光を届けてまいりたいと思います。

本日も皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

## 《人間と真実の生き方の奉唱》

【由佳先生】

ブックレットにある「ポイント」というところを、もう一度皆さまと一緒に確認してゆきたいと思います。

人類がお互いを照らし合うことは、この教義「人間と真実の生き方」に書いてある真理をしっかりと実践し、生きることによって初めて可能となります。

この世の中に起こる理不尽、不公平、苦しみ、それをただ憐れんだり、

かわいそうだと思ったりするのではなく、そのもっともと深いところに潜って、すべてと一つである心境（すべてを自己の内に観る心境）から光を投げかけてゆく。その働きをするためには、まず自らが真理をしっかりと落とし込んでゆかなければできません。

良いも悪いも、神の視点から見たら完璧である、その深い眼差しを通し、人類への愛をもって、「人間と真実の生き方」という真理を奉唱してください。

＜人間と真実の生き方の奉唱＞

## 《世界平和の祈り》

【由佳先生】

では皆さま、すべてを神々さまに委ねてゆく気持ちで祈ってください。そして、その祈りの響きの奥の奥にあるのは、「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」のエネルギーであることを感じてください。

先ほど私がお伝えした、大いなる器そのものになってゆく。その器に神々さまのお光をしっかりと受け取り、真っさらで、本当に平和そのものの器となって、自分自身の神聖と全く一つになりながら、世界平和のお祈りをしてゆきたいと思います。

その光の中で、自分の神聖の中では、「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」であることを思えば思うほど、過去に祈られてきたすべての光も、また全部、私たちの器に結集されてゆく、そういうイメージを持ちながら、世界に光を届けてゆきたいと思います。

＜世界平和の祈り＞

## 《メインプログラム「共に照らし合う 人類即神也」》

【里香先生】

皆さま、改めまして、本日は七月大行事にご参加くださいます、誠にありがとうございます。

今からメインプログラムに移ってまいります。今回のメインプログラムは、「共に照らし合う 人類即神也」というテーマになっております。

ご挨拶の文章の中で、自分の奥を奥深くに入ってゆくと、そこには本当に、自己と他者が分かれる前の、一つの間、由佳先生がおっしゃった根

源の場（無極の座）に触れることが出来ます。

それは、とても難しいことですので、実際にそれが日常生活の中で、自分の人生の経験において、どういうことなのか、どういう感覚なのか、ということ、少しだけ私の方からお話させていただいた方が、皆さまがより深くこのメインプログラムを意識して行なえるのかなと思いましたので、少しだけお時間をいただいております。

皆さま方と同様に、私自身も日々、様々な感情、葛藤、苦しみ、至らなさ、自我、人間関係、子育て、これからどういう方向性で働いてゆくのか、悩んだり、迷ったり、日々がこのような葛藤と隣り合わせに歩んできましたし、日々そのようにして生きております。

しかしその中で、何が多くの人類の生き方と違うかと申しますと、おそらく、この苦しみや様々な煩雑の中で、自分に光が当たる瞬間というのが祈りであり、私が神の方に意識を向けたときに、自分の本心の光が表面意識に流れ込み、日々の様々な感情が少しずつ静まってゆき、祈りを通して私は様々なものからほどかれ、癒され、愛を感じ、また前へ進むということができています。

ですから、自分の意識が神へ向くとき、祈りへ向くとき、それが皆さまも行なわれている『消えてゆく姿と世界平和の祈り』となっていくなされる。

最近、それに加えて気づかされたことがあります。それは、自分とともにこの道を歩んでいる同志の存在が、今年に入ってから、すごくぐっと身近に迫ってきております。

おそらくそれは、動画による祈りの会でもお話ししましたが、ご縁あって、祈りのカードを通して触れる皆さま方の、様々な困難の中にありながらも、それを悲鳴をあげて「助けてほしい」と訴えるのではなく、じっとそれを抱きながら、抱えながらも祈る姿、信じる姿、神聖をつかもうとする本当にひたむきな姿、そんなお姿に触れる機会がものすごく増えてきたおかげです。

そのお姿に触れたときに、私は、自分が神に向き、祈りを捧げていたときと同じくらいの愛のまなざしと、祈りの響きと、まったく同じ響きを感じたんです。

つまり、縦の自分と神とのつながりの神聖と、横のさまざまな環境、境

遇、みんなそれぞれ違う立場の中で役割を持って生きていますけれども、それを越えたところで、天命をいただいている同志として、それを祈りに変えて、命を輝かせようとしている、そのお姿に触れたときに、本当に、縦の神々さまが私の本心に光を当てるのと同じようなくらい、皆さま方からたくさんの愛と、神聖と、勇気と、希望と、信じる気持ちをいただいて、縦の光と横の光は同じなんだという経験を、最近ものすごくさせていただいています。

この間、動画による祈りの会の後に、祈りのカードの集まりにまた参加させていただいたんですけれども、そのときも本当に素晴らしい言葉が溢れていて、本当にシェアしたいくらいです。私も涙が溢れてしまったんですけれども、その場でご自分が選んだ言葉を語られていらっしゃる。そしてそれをただの表面的な言葉ではなく、じっくりと落とし込んで、祈り込んで、他の神聖を見たという、その瞬間を話してくださっている。そのまなざしというものが、神そのものであり、神聖そのものだということです。

白光真宏会の五井先生・昌美先生の教えに触れた人々は、ここまで高まり、一人一人が自他の神聖を見抜き、顕わしている。他者を照らすということは、自分を照らすだけではなく、その愛のまなざしで他者が照らされ、そしてそれがまた戻ってきて、自分を照らしてくれる、という、このものすごい循環があるのです。

私自身も、今年に入って立て続けに、子どもたちの様々な病気などがありました。最近のお話ですけれども、息子が顔面神経麻痺になって、突然、右の顔が硬直し、動かなくなったということが起きました。そのときに、私ははじめに母として、まずはネットの情報で、どうやったら治るんだろう、どの病院に行ったら治してくれるんだろうと、ものすごく不安、恐怖で動いていました。

でも、ある夜、息子が寝静まって、マッサージをして、祈ったときに、スーッと彼の体の中に入ってゆくことができたんです。

彼の体の中に入っていたときに感じたことは、中で起きていたことは、ただ愛でしかなかった。細胞一つ一つ、命が、精一杯の最大の愛と、最大の調和と、最大の命の輝きを放ちながら、息子の中で働いてくれている。その神聖に溶け合ったとき、その瞬間、私は全く不安を手放されました。

面白いくらいに不安が手放され、これが一生続いたとしても、私は大丈夫だ、息子も大丈夫だ、と思うくらいの確信に至りました。

すると、私がそういう安心感で彼の神聖を見てゆく中で、起きていることは、顔が硬直して、笑顔が本人らしくない、全く別人のような姿に見えたとしても、なんて輝かしい命を放っているものだろうという風に、頑張ってるわけではなく、自然と手放すことができました。

そのときに、本当に解け合うということは、彼が私の神聖を引き出してくれた。そして彼もまた、私がそういう風に照らしたときに、安心感を持って、自然と学校に行けるようになり、自分の思うような笑顔が出なくても、それでも日々の自分の道を楽しく過ごせるようになった。その姿を見たときに、お互い照らし合っているんだ、神聖を照らし合うということはそういうことなんだ、と感じました。

相手が信じられないときには自分が信じる。自分が信じられないときには誰かが後方で照らしてくれている。愛はたくさんあった。私が悩んでいるときに、家族は、先生方は、愛のまなざしでサポートしてくれた。気づけば愛は元々溢れていた。

そういう日常生活の中で、いかに自分たちが知らないところで照らされ、そして自分も照らしているのか。これが美しい神聖の照らし合い、人類即神也の照らし合いになっている。

ですので、本日、私はここで皆さまに照らされているんだ、そして自分は照らしているんだ、常にこの循環は、愛の中で神と他者とともに行なわれているんだ、という確信を持って、一つ一つの行に臨んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 《我即神也の宣言文奉唱・我即神也の印》

【里香先生】

それでは皆さま方、一つ目の行として、我即神也の宣言文を奉唱し、我即神也の印を一回、皆さま方と組んでまいりたいと思います。

表面上の姿、状況、そしてそこから生じる苦勞、苦しみの中にいる自分ではなく、静まった心の奥に常に存在している、神聖そのものの自分、その神聖なる自分と全く一つになった状態で、我即神也の宣言文を奉唱し、印を組んでまいりたいと思います。

## 《呼吸法による唱名》

【里香先生】

まず、呼吸に意識を戻してゆきます。呼吸によって、私たちは生き、生かされているのです。

一息吸って、吐くごとに、自分は生かされている命であり、与えられた肉体であることを、深く感じてゆきます。

個である自分と大いなるものが、この呼吸を通してつながり、交流しており、一つであることを感じながら、丁寧に呼吸法による唱名を行なってまいります。

＜呼吸法による唱名＞

## 《人類即神也の宣言文奉唱》

【真妃先生】

それでは皆さま、人類即神也の宣言文を、ご自身、そして人類に届ける意識で奉唱ください。心の中でお唱えいただいても結構です。

自分自身の奥深くに存在する光と神聖を感じ、静寂を感じ、そこから大いなるものと、すべてと一つに繋がっていたという事実をお受け取りください。

その心境で唱えるからこそ、自分の奥底の神聖が輝き、引き出されると同時に、すべての消えてゆく姿の奥にある本質の神聖こそが人間なのだということが分かります。

根源へと入ってゆくと、自分自身が、より静かな、より純粋な光で世界を照らす存在になってゆくのです。そのことを感じながら、人類即神也の宣言文をお唱えください。

＜人類即神也の宣言文奉唱＞

## 《人類即神也の奉唱（七回×三セット）》

【真妃先生】

皆さま、人類即神也を、七回を一セットとして三セット唱えます。お声に出して唱えられない方は、お心の中でお唱えください。

今、目に見える世界に生じている様々な争いや分断は、過去の消えてゆ

く姿が現れている瞬間であると同時に、神聖が現れようとしている瞬間であります。

人類即神也の唱名は、人類一人一人が神聖なる存在であるという宣言であり、そうした自覚を人類に呼び起こさせる唱名であります。皆さまと意識を込めて唱えてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

＜人類即神也の奉唱（七回×三セット）＞

## 《人類即神也の音霊》

【真妃先生】

皆さま、通常の人類即神也の印の音霊を、声に出して空間に響かせてまいります。ここでは手の動きはつけず、発声のみを行ないます。一呼吸ずつ区切って行なってまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

音霊の響きを通して、人類即神也という真理を人類に捧げます。言葉ではまだ理解しきれない人々に対しては、この響きを感じてもらうことがとても大切になってまいります。

音霊を通してすべての境界線が消えて一つになってゆくという意識を持ちながら、音霊の響き一つ一つを丁寧に発していただきたいと思います。

＜人類即神也の音霊＞

## 《人類即神也の印》

【真妃先生】

それでは、人類即神也の印を一回組みます。人類即神也と宣言してから印を組んでください。宣言は小さな声でも結構です。

この印は、天に通じ、神界に届き、そして地上世界に光となって働き続けている、という昌美先生のお言葉をしっかりと胸に収めていただき、今から組む印はこの肉体の自分のみで組んでいるのではなく、神界としっかりとつながって組んでいる、そして神界と一つにつながっているからこそ光となって働く、という自覚を持ちながら、音霊の発声を伴った人類即神也の印を一回組んでください。

＜人類即神也の印＞

## 《呼吸法による人類即神也の印》

【真妃先生】

これまでの六つの行を通じて感じたワンネス、循環する光の中、照らし合う私たちと人類が一つになってゆくとともに、神々さまのお力、お働き、お守りをいただきながら、自分も人類もすべてが照らし照らされていることを、自らの呼吸の中に感じてください。

その響きの中で、七つの行の締めくくりとして、呼吸法による人類即神也の印をお組みください。

<呼吸法による人類即神也の印>

## 《自分の神聖自覚の祈り》

【由佳先生】

皆さま、ここまで一つ一つ、この地上における究極の真理を、祈りで、言霊で、音霊で行ない、本当に今日、七月大行事に全身全霊で捧げてくださり、本当にありがとうございました。

「共に照らし合う」というテーマの中で私たちは今回、「人類即神也」というところにフォーカスしながら、人類の神聖復活の夜明けのための一歩として、この行事を行なわせていただきました。そこで思うことは、改めて、冒頭で里香先生がお話くださった息子さんとのお話が、やはり私の中でも深く響いております。

お互いが本来神聖であるということ。その深いところで共につながること。自分自身の神聖、本来自分は神であるという深いところから、目の前にいる人とつながることで、相手の中に溢れる神聖、相手の神をしっかりと照らす。そしてその相手もそれを照らしながら、見ている自分も神そのものであるという、日常生活において、私たちはこうやってお互いの神聖を照らし合い、見続け、認め合い、つながり合っているというのを、すごくイメージとして感じさせていただきました。

そこには境界線がない。自分と他者にも境界線がない。自分と神々にももう境界線はない。そして自分と同志、また過去の、神界に行かれた同志とも何の境もなく、私の中にあるのは、神の響きそのもの、光そのものなんだということ。

この人類即神也の真理や、白光真宏会の真理を理解できる人は、まだ地

上にすごく少ないです。理解できるどころか、それを実践して行として行なう人も、本当に限られています。

その中で、その真理をこうやって日常の中で実践し、日々の生きる中で互いの神聖を見つめ合い、そして神聖に光をもたらす。本当にそれができる人は、まだまだ地球上ですごく少ない。限られている中で、ゆえに、その深い闇の中で私たちが自分の神聖を光らせるということが、どれほどに遠く遠くまで真理の光を届けているか。

その働きを、自分自身が今日また改めてさせていただいたという、自分の天命を自覚し、そこに感謝を捧げる時間を、今から数分間取りたいと思います。

その中で常に、私たちは、私たちの守護の神霊、五井先生、大光明霊団、宇宙神とも一つであるという自覚も持っていてください。

今この瞬間、皆さまとともに、自分自身の神聖を自覚しながら、他の神聖を照らしてゆく。人類は本来、皆即神なのであるという光を、この一時間余り、ずっと地上で照らし続けてきたご自身の神聖に、ご自身の神々さまとともに一つであった自分に、しっかりと感謝の時間を取ってゆきたいと思います。

そしてその中で、最初にお伝えした、ご自身一人一人の神聖の器に、神々の光と、同志の光と、すべての光を取り込んで、人類即神也という素晴らしい光をこの地上に発したということを、ぜひ大事に思いながら、今の時間を過ごしていただきたいと思います。

<自分の神聖自覚の祈り>

## 《共に照らし合う祈り》

【由佳先生】

今、ご自身の中に本当に深く深く潜ってゆくと、神聖そのもの、神そのものの自分をすごく感じられたと思います。この尊い行を真剣になさった後だからこそ、またその光をしっかりとご自身が感じ、感謝を捧げられた時間になっていると思います。

続いて、今度は共に照らし合う祈りに入ってゆきますが、私たちには、全国各地、そして世界中で、今日この行を行なった素晴らしい同志がたくさんいらっしゃいます。今度は、その一人一人の光が大きな太陽にな

ってゆくような、全部が一つとなって、地上の人類を照らしてゆく、そういうイメージを持ってゆきたいと思います。

まだまだこの真理を、そして自分自身が神である、神聖であると気づけない人たちがほとんどですけれども、私たちのこの結集されたすごい光が、もう一度その人類の心に大きな光を届け、照らしてゆく、そういう時間を取ってゆきたいと思います。

この光が照らされていった後に、人類の中からまた一人、そして一人と神聖に目覚め、ポツポツと、またその中から光が照らされ、その光がまたお互いを照らし合い、それが神聖復活の夜明けになってゆく、私はそう感じております。

ですので、最後にもう一度人類に向けて、私たちの大きな光を結集し、光を届けてゆきます。人類は本来神そのものであり、もう国境線を越えて、宗教、民族、対立も越えて、私たちが今お互いを見ているように、お互いの神を見てゆける、そういう光を届けてゆきたいと思います。

<共に照らし合う祈り>

## 《神聖復活の印》

【由佳先生】

皆さま、本当にありがとうございました。神々さまが皆さまの働きをすごく感謝されている響きを今感じています。

私たちが働かせていただけること、そしてそれが私たちの神聖の喜びだけではなく、神々さまの喜びにもなっているということを、改めて感じさせていただいています。

今日の行事の一番最後に、神聖復活の印を組んでまいりたいと思います。

この一連の流れにあったように、私たちは現れている現象をつかみません。見えている苦しみや悲しみをつかみません。その奥にある「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」の本質を見えています。現象の奥にある一人一人の神聖を見えています。

国を見えていません。宗教を見えていません。肌を見えていません。行動をも見えていません。その奥にある神の響きと光と愛と調和と、その神聖を見続け、それだけを見て、もう一度、神聖復活の印を全人類に向けて組ませていただきたいと思います。

## ＜神聖復活の印＞

大成就おめでとうございます。ありがとうございました。

### 《昌美先生のご法話》

【昌美先生】

皆さま、ごきげんよう。はじめから最後まで、皆さま方の尊いお祈り、ご講演（お話）をいろいろお聞きし、私は今、心が感動しております。

会員の皆さま方のお祈り、そして印。多くの国々の人々の、国境を越えて一つになろうとする、会員の皆さま方の心の高さにいつも感動し、いつも感謝を申し上げております。

皆さま方は、皆が平等で皆が幸せで命を輝かせ、最後の死ぬ瞬間まで生き生きと生きるお姿を拝見できるように、だんだん近づいてまいりました。

私は、その皆さま方が一步一步天に近づき、五井先生のみ教えをそのまま言動行為に表されている会員の皆さまに、いつも感動し、いつも感謝申し上げ、いつも心から喜んでおります。

五井先生はお出来になりますけれども、私一人ではこの地球を変えることは絶対にできるわけがございません。。私とともに皆さま方お一人お一人が、本当にともに世界平和の祈りを祈り、そしてずっと続けてきた。病気になっても、入院しても、怪我をしても、あらゆる意味で、その間にその祈りがある。

我々には、本当に素晴らしい、五井先生から授けられた平和の祈り、自分自らの本心を導き出して大きな力となる、そういう印があるので、私は喜びとともに、まだ元気でおります。

私はまだ屈み込んでおりません。両足でどンドン一人で歩いております。めったに車椅子にはまだ乗っておりません。ですから、やはり自分の意識と感謝で、自分自身が健康であることを自分自身で感じて、そして五井先生、そしてすべての会員の皆さま方のお祈り、その光のおかげで、こうやって元気でまだ生きております。

皆さまとともに生き、そして印を組み、多くの人々のために、幸せのために、苦しみがなくなるように、印を組むことが私の喜びでございます。

今日もまた、多くの会員の皆さま方とともに印を組み、そして一日を過ごせたこの喜びは、何の苦しみも痛みもございません。

私自身も 85 歳を過ぎまして、それでも自分の両足で元気で歩いております。姿勢もまっすぐでまだ屈んでおりません。これも、努力とそれから意識でそうすること続けられるということ、自分自身で発見しました。

でも皆さま方、それぞれの生き方がございますので、それがすべてではございません。どんなに心が苦しくても、お体が歩けなくても、歩こうと思う気持ちで、人間はそれで歩いたのです。皆さま方と同じように、同時に生かされております。

私は、そういう会員の皆さま方、多くの方々とともに生きているこの瞬間を、大変ありがたく光栄に思っております。

これからも皆さま方とともに、この日本国を、そして世界を一つにし、国境線を越えて、全人類が、黒人であれ白人であれ黄色人種であれ、どんな人種や民族であろうとも、国境線を越えて全人類は皆一つにつながっているんだという、そこまでいよいよ近づいてきたという喜びが、感動が今、自分自身の全身を光で包み込んでおります。

これも皆さま方とともにあり、皆さま方とともに祈り、皆さま方とともにこうやって感謝し続けてきた結果だと思えます。

これからもまたお会いしましょう。この世界はまだ続きます。世界は、宇宙も地球も、どんどんいろんな意味で変わってまいります。ですから、そういう世の中で、人類は国境線を越えてみんな一つであるというところに到達する。どんな人も、苦しんでいる人も、お互いに助け合い、そして喜び合い、幸せを望み合い、そして生かされて生きているこの喜びを、最後まで持ち続けていたいと思います。

皆さま方とともにこうやって生かされている喜びは、私の一生の思い出でございます。今日も皆さま方とともにこうやって富士聖地で過ごさせていただいたことに深く感謝申し上げて、これで私のお話を終わらせていただきます。

皆さま方の存在は実に尊く、実に多くの人々に光と喜びと幸せを与えてくださっております。これからもどうぞよろしく願いいたします。では皆さま、ごきげんよう。

## 《由佳先生のご法話》

【由佳先生】

皆さま、おかげさまで、七月大行事も無事最後まで終わりました。

今、昌美先生がおっしゃってくださったように、本当に皆さまと一緒に祈り、印を組み、そして私たちが望む世界に、一步ずつ、少しずつかもしれないけれど、本当に近づいているというこの働き、私たちの祈りや印は、たとえ私たちがこの地上を去ったとしても、その光は光り続けてゆくんだという、このすごさですよ。ずっと残り続けるんです。

私たちの今日の働きは、またこれからもずっとこの地上で光を照らしてゆく。ゆえに、必ず人類が自分たちの神聖に気づき、そのように生きてゆく日は必ず訪れる。

昌美先生がおっしゃってくださっているように、それが近づいているというのは、これまでの会員の皆さまのお働き、そして今の会員の皆さまのお働き、印のおかげなんです。

なので、繰り返しになりますけれども、どうぞご自身のこのすごいミッションに感謝し、自覚をし、またお互いを称え合い、今日の七月大行事を終わらせてゆきたいと思います。

昌美先生はご挨拶文でこのようにおっしゃっています。私たちのその奥にある人類の神聖を信じ、その神聖に光を送り続け、人類は本来神の命である、人類は本来光である、人類は本来一つである……。

本当にこの世界を今誰が作るのか？ どうやって作ってゆくのか？ その答えは、本当にこの七月大行事の行事にすべてあると思いますし、皆さまの中の体感に、その実践の光は残り続けます。神聖に光が届くと確信しています。

皆さま、本日は本当におめでとうございます。そして、人類のために、人類即神也が本当に地上に照らされ、降ろされるよう、お働きください。誠にありがとうございました。

以上